

## 東京支部の足跡を訪ねて

同窓会長 岸 昌代

令和 2 年 3 月 20 日、「春は名のみ～」早春賦さながらの日、私は一人和田峠を超え、上田市の無言館へ向かいました。

昨年の東京支部総会の折、宮川秀世元支部長(高校 8 回)より、かつて東京支部の面々が、無言館館主の窪島誠一郎氏の強い意志に賛同、戦没画学生が遺した絵を保存するための寄付をされ、その証が残されているとお聞きし、それを同窓会の歴史の中に残したいとの思いからです。

多くの方がご存じのとおり、無言館は 1997 年 5 月 2 日に、窪島氏が夢を断たれ、戦場に散った画学生の遺した絵を展示するために作られた美術館です。

その日のその時間の見学者は私一人、静謐な空間の中、一枚一枚の絵が私の足を止め、気がついたら 2 時間余りが過ぎていました。

あまりにも悲しくて…申し訳なくて…

鼻をかみかみ無言館を後にしました。

後世に残したい気持ちであります。

今日は二葉の入学式。いつか二葉の子らに訪れてほしい。

令和 2 年 4 月 4 日

